

臨床宗教師の研修では こんなことを学んでいます。

①「傾聴」「スピリチュアルケア」の能力向上

被災地や医療施設でまず必要なのは、教え導くことではなく、相手の気持ちに寄り添って耳を傾けることです。ロールプレイなどのグループワークを通して傾聴のスキルを身につけます。お一人お一人が大切にしている価値観や信仰心を支え、それに気づき、表現することを助けるのがスピリチュアルケアです。

②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上

公共空間では宗教の異なる人や信仰を持たない人との対話が前提となります。他(多)宗教の信仰者と触れ合い、儀礼に学ぶことで自分の信仰を自覚し、深めることにもつながります。宗教協力は、布教を目的とせず人々と接することを学ぶ第一歩です。研修受講者が持ち回りで担当する「日常儀礼」、宗派宗教の枠を超えて行なう被災地などでの「追悼巡礼」は自身の信仰を確かめるためにも貴重な体験となります。

③ 宗教者以外の諸機関との連携方法

病院などの公共施設は宗教者のホームグラウンドではありません。アウェイの場所では、適切な手続きを踏まえてTPOに応じた振る舞いが必要です。公的施設の運営者や他職種の専門家との連携から学び、ホスピス、ビハラー病棟、公共空間で開かれる傾聴喫茶などで実習を行ないます。

④ 適切な「宗教的ケア」の方法



さまざまな支援者がいる中で、宗教者ならではのメリットとはなんのでしょうか。読経・祈り・お祓いなどの行為や、数珠・ロザリオ・お守り・お札・お地蔵さんといった物品など、それぞれの宗教は、心のケアに役立つ工夫や知恵を育んできました。

臨床宗教師は倫理綱領・倫理規約に基づいて行動します。

臨床宗教師倫理綱領・臨床宗教師倫理規約（抜粋）

- 臨床宗教師は布教・伝道を目的として活動してはならない。また、そのような誤解を生むような行為は控えなければならない。
- 臨床宗教師は、活動する公共空間において、そのルールを遵守しなければならない。
- 臨床宗教師はケア対象者の秘密を守りつつ、派遣先の情報共有のルールを遵守しなければならない。
- 臨床宗教師は、布教ととられる行為を行わず、地元の宗教者と友好関係を保たなければならない。
- 臨床宗教師はケア対象者から金員を受け取り、ケア行為を宗教的宣伝に使うなど個人的欲求または利益のために行動してはならない。

※倫理綱領・倫理規約の全文は日本臨床宗教師会のウェブサイト (<http://sicj.or.jp>) に掲載されています。

「認定臨床宗教師」とは？

2018年より、一般社団法人日本臨床宗教師会による「認定臨床宗教師」の資格制度が始まりました。

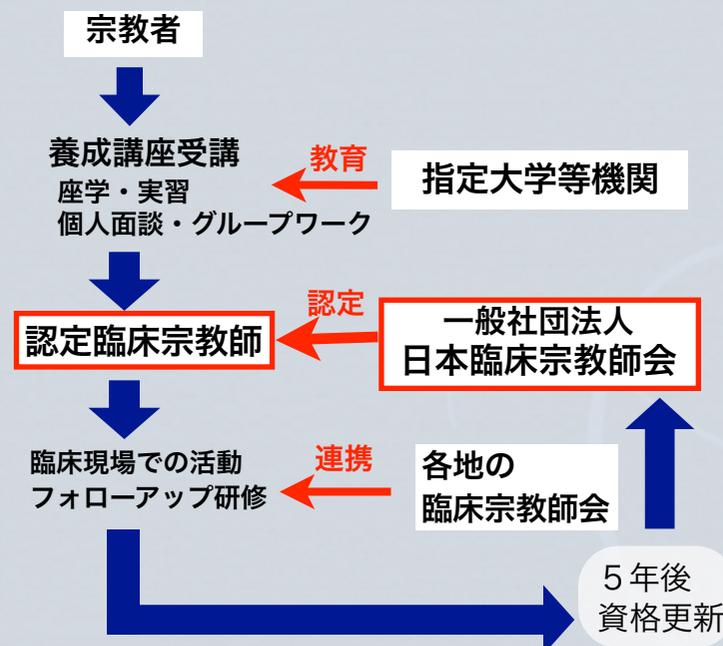
資格認定に必要なのは・・・

- 宗教者であること。
- 指定機関が主催する養成講座において講義・実習等を含む研修プログラムを修了すること。または、公共空間における一定時間以上の臨床経験を有すること。
- 各地の臨床宗教師会に所属して活動すること。
- 継続研修を受講すること。
- 倫理綱領・倫理規約を遵守すること。



※「認定臨床宗教師」の資格は5年更新制です。資格更新のためにフォローアップ研修・倫理講習の受講が義務づけられています。詳細は日本臨床宗教師会のウェブサイトをご覧ください。

認定臨床宗教師の資格認定システム概要



認定臨床宗教師養成教育プログラム認定機関

東北大学実践宗教学寄附講座
 龍谷大学大学院実践真宗学研究所
 武蔵野大学臨床宗教師・臨床傾聴士養成講座
 種智院大学臨床密教センター
 愛知学院大学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻
 大正大学大学院仏教学研究科
 上智大学臨床宗教師養成プログラム
 NPO法人日本スピリチュアルケアワーカー協会

